

ヨコハマ人・まち 第8号

ヨコハマ人・まち

都市計画局企画調査課では、パートナーシップのまちづくりを進めるため、まちづくりの情報誌「ヨコハマ 人・まち」を発行しています。この情報誌は趣旨に賛同して集まった市民と企画調査課で作っています。

まちづくり 住みつづけるための街繕い

富岡並木調査隊（通称とんなんたい）（金沢区）の手法と試み

「並木」ってどんなまち？

昭和30年代の後半から昭和40年代は、横浜が都市として急速に成長した時期であり、たとえば横浜市の人口は毎年5~10万人近い増加がつづきました。（最近の人口増加は年間1万人前後です）

都市化の大きな波を受け、都市として成長していくために、都心の整備や強化、人口を受け止めるための港北ニュータウン（計画人口22万人）の建設、高速道路網の整備やベイブリッジの建設、地下鉄の整備など骨格づくりを急ぐ必要がありました。

昭和40年、これらの骨格づくりとあわせて、都心の周辺や市街地に散在していた工場を金沢の沖合いの埋め立て地に集約し、跡地を市街地の整備に役立てるとともに、工場に働く人のために質の良い住宅を供給するというねらいを実現するため、「金沢地先の臨海都市開発事業」が構想されました。

都心部の強化・整備の一貫として、現在整備がすすめられている「みなとみらい21」地区も、この構想にもとづいて三菱横浜造船所を移転できたことがキッカケになっています。

金沢区「並木」は、この構想にもとづいて計画され、横浜市や神奈川県、住宅・都市整備公団等が住宅を建設した新しい住宅地（金沢シーサイドタウン）です。

住宅地は、約82haの土地に約10,000戸、人口30,000人が入居する計画で、昭和53年から入居が始まりました。入居開始から5年経った昭和58年には世帯数は約6,500世帯に達し、平成11年2月末現在

8,121世帯、24,307人が居住しています。（並木1丁目～並木3丁目の合計）

入居が開始されてからほぼ20年を経過し、地区センター・スポーツセンター・地域ケアプラザ等の公共施設や商業施設も良く整った街になりました。庭先や通りに面して植えられた樹木も育ち、落ち着いた雰囲気の住宅地になってきています。

住宅地の計画に際して、住戸の計画や住棟の配置、「小道」「通り」などのネットワーク、水辺に親しめる公園の配置等について細かな工夫がこらされた住宅地ですが、長く住み続けてくるなかで、不足する駐車場対策やエレベーターが無い住棟に高齢者が住む場合の不便等、いくつかの課題もうまれてきている様です。

並木の専門店街で行われた巨大立体模型地図展（1999.3）



「まち」に住み続けるためには、「まち」について知り、まちにすむ様々な人々の意見をまとめあげながら、これから起こってくる課題を知り、いまのうちから対応策について検討し、可能な工夫や改善を積み重ね、時間をかけてまちを「つくり」いくことが必要です。

さまざまな地区で、街を知るための地図づくりがおこなわれています。「ヨコハマ 人・まち」8号では、地図づくりやデータ分析、模型づくりをつうじて、居住者のまちへの関心を刺激する金沢区「富岡並木調査隊（通称 とんなんたい）」の手法や試みを紹介します。

このグループでは、並木の居住者を中心に、金沢区内の大学のスタッフや学生、地区内の市民利用施設運営の関係者、金沢区の職員などが参加して、まちを知るための地図づくり、計画的につくられた「並木」と自然発生的にできた「富岡」のまちの比較や統計データの分析などの活動がすすめられてきています。

このグループは、昨年11月に開催された第2回ヨコハマ都市デザインフォーラムの地域会議への参加をキッカケに、巨大な立体模型をつくりました。3月12日～14日には、並木のほぼ中心にある専門店街の一部をかりて、パネルやこの巨大な立体模型の展示を行いました。これは、自分達の活動や、自分達がこれまでに発見したこと、そこから考えたことをもってたくさんの人に知ってもらおう、たくさんの人からの声を聞いてみようという試みです。

「街繕い（まちづくり）」の考え方

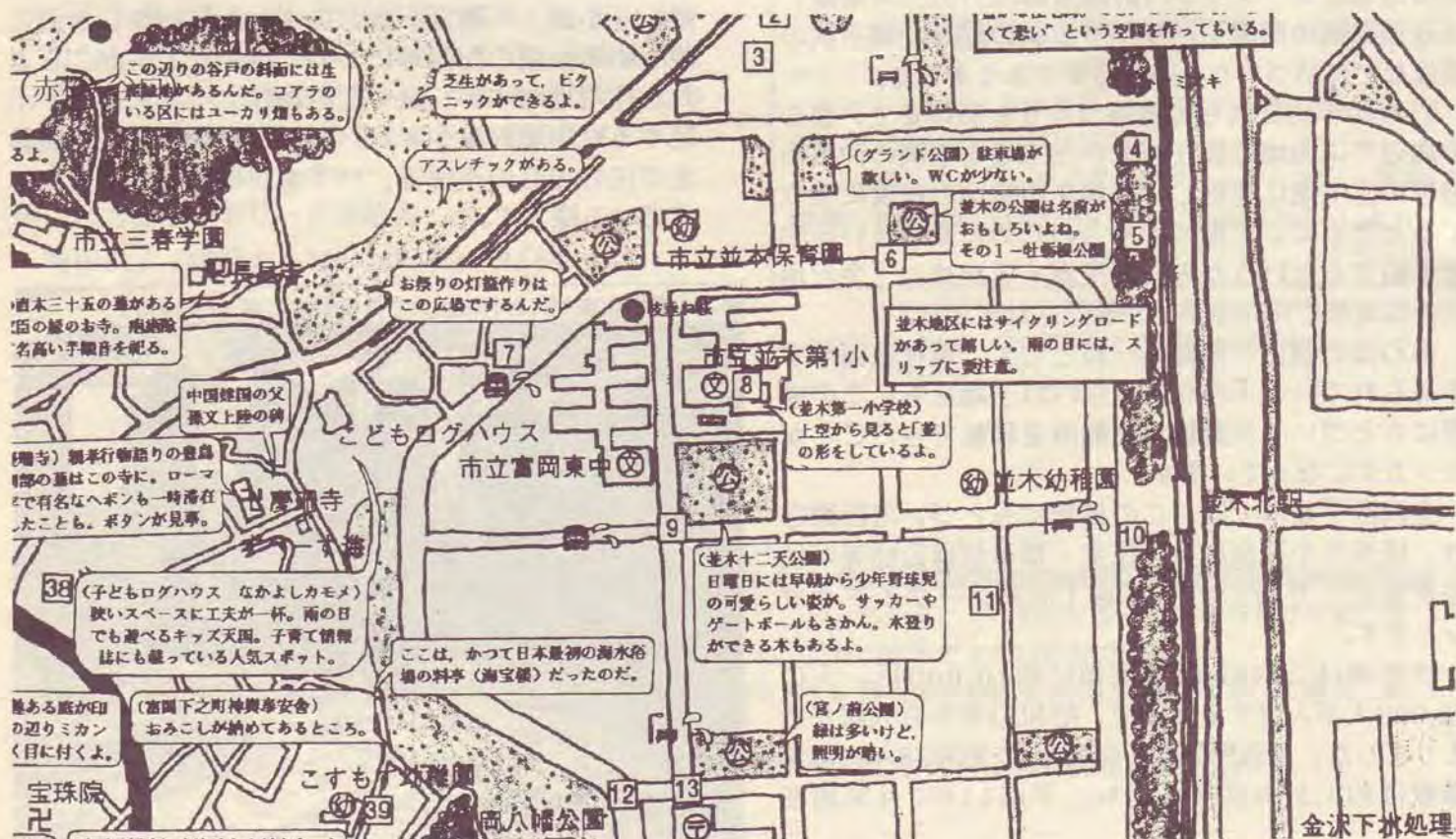
街にある資源を再活用・再利用することによって、誰もが安心して住み続けられる街のお手入れの方法が編み出せたら....。街づくりの発想が、とんなんたいの「街繕い（まちづくり）」の考え方です。

まず、街の姿をもう一度見つめ直してみようとする皆さんの人たちと一緒に「ガリバー&アリス地図」をつくる作業が始まりました。（平成8年）

ガリバー地図

まずは、住んでいる人たちが街のどこを魅力とと思っているのか、何を課題と感じているのか、巨大地図（畳8畳分くらいある！）を街角で広げて、道行く人からたくさんの街情報を収集することにしました。このガリバー地図の製作は、「遊撃ガリバーマップづくり」と名付けられ、おもしろまじめな体験は、隊員達に街資源の新たな発見をもたらしてくれました。この情報を検証するために実地見聞をする「ガリバーさんの足跡探し」を経て、「ガリバー地図」ができあがりました。

ガリバー地図の一部



アリス地図

「ガリバー地図」づくりと同時に、街を別の角度から見つめ直してみる試みとして、「アリス体験」が行われました。アリス体験とは、「車椅子体験」「視覚障害者誘導介助体験」「疑似高齢者体験」の3つを指します。

「誰もが安心して生活できる街」は、高齢者や障害者にとって何よりも求められる街の姿です。車椅子や視覚障害者の介助の基本を学び、さらに、実際に街を歩いてみる「アリス体験」。これは、どのような街の施設や仕組みが高齢者にとって役に立っているのか、また、壁になってしまうのか、身をもって体感してみようという試みでした。この体験を通じて発見したあれこれをまとめたものが「アリス地図」です。



専門店街でのガリバー地図やアリス地図のパネルの展示 (1999.3)

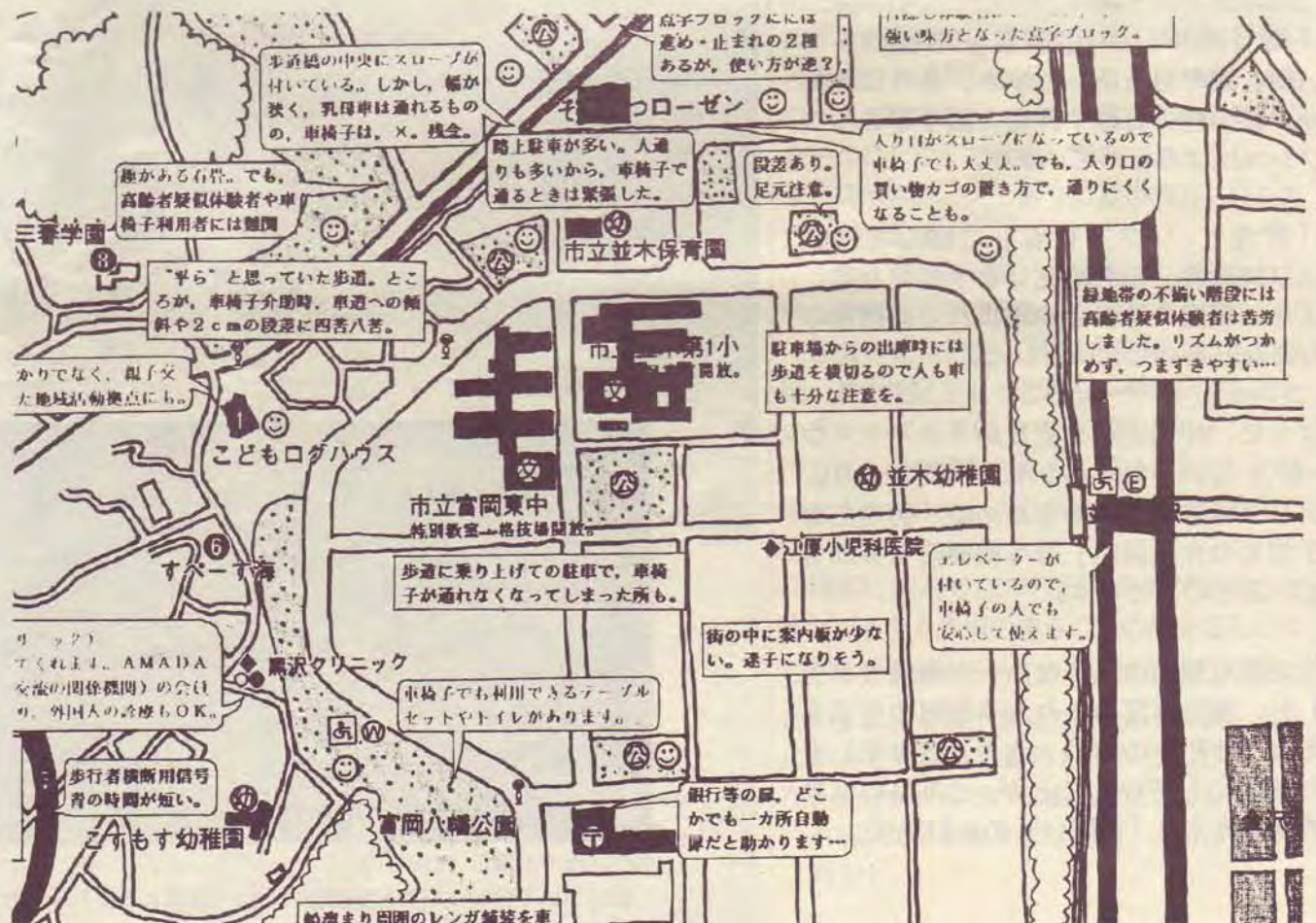


アリス体験の様子



アリス地図の一部

体験を通じて発見したあれこれ書き込まれている



ガリバー&アリス地図の分析

「ガリバー地図」と「アリス地図」は、街のお手入れ方法を考えるための基礎データであり、街の診断カルテとも言えましょう。なおかつ、2つの地図づくりは、とんなんたい隊員の結束を強める共通体験でもあったようです。

このカルテの分析は、平成9年に行われました。分析の視点は、「地域鳥瞰」「街づくり-ハード整備」「町育て-ソフト整備」の3つです。

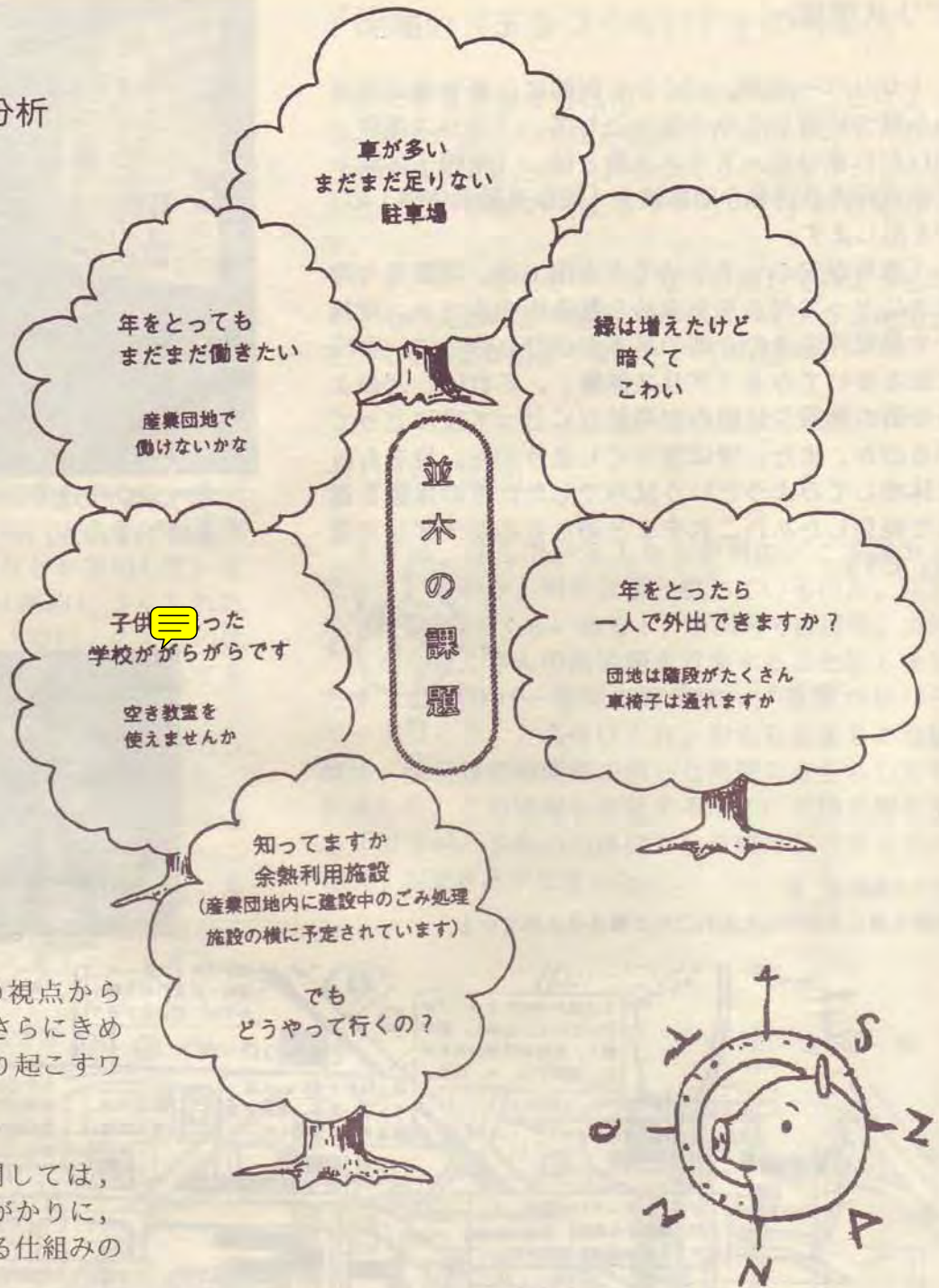
「地域鳥瞰」では、人口統計資料を使い、地域の年齢構成の推移など、地域の姿を数的にとらえ直す科学的な視点からの検証を試みました。

「街づくり-ハード整備」の視点からは、街を蟻の目を持って歩き、さらにきめ細かく街の魅力資源や課題を掘り起こすワークショップを行っています。

「町育て-ソフト整備」に関しては、「アリス体験」からの発見を手がかりに、支えあい制度の勉強会や望まれる仕組みのあり方などを話し合いました。

さらに、仲間を増やすため「ナイト・ウオーク」といったイベントを開催したり、「アリス体験」を深めるために「男のために手始めの介護講座」等へ積極的な参加もしているとのことでした。

生活環境整備のようなハード整備（タテ糸）と、施設運営のあり方や毎日の生活を支え合う仕組みの活用・改善（ヨコ糸）をより緊密にしていくことが、2年目の活動調査から見えた「街繕い」の糸口です。



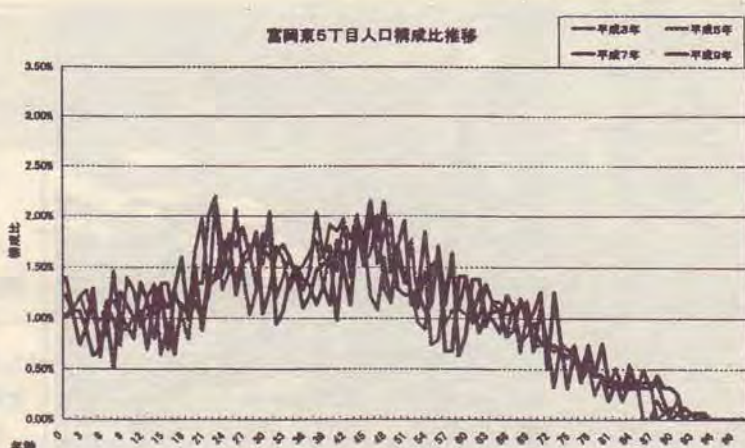
専門店街での展示 (1999.3)

街について分かったことが模型の上に(旗のように)示されています



上のグラフは、並木2丁目（左）と富岡東5丁目（右）の年齢別の人口の割合の変化（平成3年から2年毎）を比較したものです。横軸が年齢、縦軸が割合です（とんなんたいの資料より）

計画的に開発された住宅地では、同じような年代や家族構成の世帯が入居するため、様々なタイプの住宅をませたり、入居の時期をずらすなどの工夫がされますが、世帯の増え方が早く居住者の入れ替わりが少ないと年齢の構成がかたよることがあります。



グラフをみると、並木の年齢別人口では、45才～54才の人（これから高齢化を迎える年代）や15才～24才の人（入居前後に生まれ車が欲しい年代？）の割合が特に多くなっており、グラフの形がほとんど変化せず（居住者の入れ替わりが少なく）、子供の割合が少なくなっていることがわかります。富岡の年齢構成にくらべて山や谷が大きくかたよっています。

駐車場が不足ぎみであることや、今後5年～10年の間に高齢者（65才以上）が一気に増加することになります。

巨大立体模型（下）とパネル



巨大立体模型地図展を見て

3月12日～14日にこのイベントは行われましたが、我々は13日にお邪魔しました。

なんとといっても、昨年デザインフォーラムのために作ったという、富岡・並木地区の立体模型の力強さに驚きました。街の様子が一目瞭然のすばらしさもさることながら、絶対に一人ではできないもの、何人かの人々が心を一つにしなくては成し得ないことをしっかりと提示され、久し振りに連帯の力に打たれた気がします。

また、ガリバー&アリス地図や展示されていた資料も力作でした。

さまざまな問題、課題を抱えつつも、富岡・並木地区をもっと暮らしやすいまちにというテーマと共に、とんなんたいのメンバーの方たちの意識がどんどん高められていく様子をうかがい知ることができ大変印象的でした。

横浜に住んで15年程経ちますが富岡と並木という全く表情の違う二つの街をほんの少しだけですがあるいてみて、また「とんなんたい」による展示を見て、改めて、人・まちについて考えるところが多かったです。現在、自分がすんでいるまちを見つめなおすいいチャンスでもありました。

（蟹沢）



専門店街での展示の様子 (1999.3)



模型による情報の提示は、文字や写真にくらべて、多くの人々の注目を引き分かりやすく、街の様子を示す上でとても効果的です。

3日間で600人近くの人々の目に触れ、200人近い人から意見（展示場所でのアンケート）が得られたそうです。

「まちつくり」を考えるグループが、自分達で調査し分析した結果を、できるだけ多くの人々に知ってもらおうという試みは、巨大立体模型やパネルを使うことによって、大きな成果をあげた様です。

展示をした立場、展示を見た人たちの感想はどうだったのでしょうか。展示を終えて、「とんなんたい」からさっそく送られてきた展示のまよめの一部（右）を紹介します。

（金成，赤松，谷口）

巨大立体模型地図展

参加者人数 約 600名

内 アンケート回答者数 200名

自由意見記入者数 102名

開催側：とんなんたいからの感想

1. とにかくたくさんの人に立ち寄ってもらえて良かった。
2. 聴講型の発表会形式ではなく、小グループ毎にスタッフが説明に付く方式だったので、相手に合わせた説明ができ、5・6才の子供から70才代の大人まで楽しんでもらうことが出来たし、また参加者の理解をより深めることが出来たと思う。
3. 住んでいる人が、住んでいる人の言葉で「まち」が抱えている課題やこれから直面するであろう問題を語ることにより、濃密で広範な意見交換が可能となった。
4. 新しい意見や反応を取り入れることは、活動の活性化に繋がる。自分たちの活動をもっと知ってもらうためにも、地域で定期的な情報発信、情報収集をしていく必要があるのではないか。
5. 街をつくったときの思惑と今の住み心地のふれ・ずれを検証することは、次の20年を考える手がかりとならないか。

参加者側：アンケート自由意見より

1. 自分もリサイクルとか、いろんなことに挑戦しようと思った。(11才以下女)
2. たまにやってくれると楽しい。(11才以下男)
3. 町の様子がよく分かる。パネルも分かりやすかった。(12~17才女)
4. 街の今昔対比写真が興味深かった。(18~22才男)
5. 今まで気が付かなかった部分を発見できた。考えが深まった。(18~22才男)
6. 何となくピアレに来たらこれがあって、なんか来て良かった。(23~29才男)
7. これからも続けて欲しい。(23~29才女)
8. 自分が住むところの良さも実感できたし、問題も分かった。(30代男)
9. 市民団体での調査は始めて。町の様子がよく学習できる。本にまとめて学校に配布しては。これからもPRを。(30代女)
10. よく調査されている。地域を見直す良いきっかけになった。20年後の街が心配。(40代男)
11. これから私たちが生活をしていく中での街づくり。自分たちから考えなければいけないと思った。(40代女)
12. 活動を初めて知った。貴重な調査結果をなんとか活かしていきたい。(50代男)
13. 考えても見なかった活動に頭が下がる。これからはがんばって。(50代女)
14. 課題の中からどんなことをimprove(改善)し、どうaction(行動)していくのが重要ですね。(60代男)
15. いろいろなことが分かった。出来ることを少しずつ考えたい。(60代女)
16. 今の生活環境を大切にしたい。大変な労作、ご苦労様でした。(70代男)
17. すばらしい出来映えに脱帽。今後の活躍を祈ります。(70代女)

地域の総合的なまちづくり

横浜の各地域やテーマのまちづくり活動の動きをお伝えします。

ネットワークが育むまちづくり

～4方面ネットワークからの報告

1996年に、市内の様々なまちづくり活動グループと横浜市都市計画局企画調査課がいっしょになって、活動を展示する「ヨコハマ 人・まち横丁展」を開催しました。そのとき、市内を4つの方面に分けてそれぞれ企画を練り展示を行ったのをきっかけに、4方面ごとに活動グループ間の交流をすすめるようとしたのが4方面ネットワークです。

北部方面ネットワーク（港北区・緑区・青葉区・都筑区）、西部方面ネットワーク（保土ケ谷区・旭区・戸塚区・泉区・瀬谷区）、中部方面ネットワーク（鶴見区・神奈川区・西区・中区・南区）、南部方面ネットワーク（港南区・金沢区・栄区・磯子区）の4方面ネットワークの活動は、この情報誌でも紹介してきましたが、今回はこれまでの活動を振り返って、交流から何が生まれるかを紹介します。

□区内のネットワーク・区を超えたネットワーク～南西部方面ネットワーク～

南部では、横丁展以前から金沢区内の市民グループのネットワークが区を超えて広がりつつあり、「金沢水の日」を通して平潟湾を共有する横須賀市グループとの連携や、円海山緑地に隣接する磯子区、港南区、栄区、鎌倉市の市民グループのネットワークが生まれています。金沢区では横浜市でのネットワークに対して先んじて区レベルからのネットワークを進めてきたといえます。さらに横丁展が開かれる頃からは、横浜金澤地域総合研究集団と港南まちづくり塾が世話役となり、「南西部NPOネットワーク連続講座」を開催しており、横丁展の「南西部」としてネットワークしようという動きが進んでいます。

◆南西部方面ネットワーク連絡先

村橋克彦（世話人）

TEL&FAX.045-787-2066（横浜市大）

□ 活動現場を知り合いながら交流しよう～西部方面ネットワーク

地域のまちづくりグループ、歴史のまちづくりグループ、水と緑のまちづくりグループ、地域の福祉活動グループ、生涯学習グループなどが参加する西部方面ネットワークでは、3ヶ月に1回程度の視察交流会「キャラバン隊はゆく」を中心に活動を続けています。

それぞれのグループの活動現場に出向き、活動に実際にふれながら意見交換をすることで、異なる分

野で活動しているグループ同士の交流が、地域の総合的なまちづくりや地域合意をどう進めていくかというノウハウや知恵を分かち合うことになるということに気がついてきました。

また、西部方面ネットワークは、瀬谷区長屋門公園の古民家、瀬谷区日向山小学校のコミュニティスペース（ランチルーム）、戸塚区ドリームハイツの「夢みん」（高齢者などのサロン）といった活動拠点をもって活動しているグループが多いことも特徴となっています。今後はこうした各拠点が行っている自主的な事業とも連携をはかりながら、西部方面としての交流活動をすすめていきたいと考えています。

◆西部方面ネットワーク連絡先

内海宏（事務局）TEL045-852-3208

□「この指とまれ！」で交流の輪が広がった～北部方面ネットワーク

横浜の中でも内陸部の「丘の手」に位置する北部方面のネットワークでは、「ヨコハマ 人・まち横丁展」の翌年にさっそく、「この指とまれ！」方式の実行委員会を募って、「横浜丘の手ふるさと創り21フォーラム」を開催しました。その後毎年北部方面の各区でサロンを続け、「この指とまれ！」の輪を広げています。

北部方面は、区ごとにもまちづくりや交流の活動が盛んな地域で、都筑区では自主活動グループの交流会「芽の出る交流会」を毎年行っていますし、青葉区では、自分のまちをよく知ろうと「まっぴい・青葉の街」というグループが地図づくりに取り組んだり、毎月「たまりんば」という自主活動グループの交流の場が開かれています。

各区の区民会議や区民のつどいにおいても、まちづくり活動グループのメンバーが何人か参加していたことにより、「まちづくり」をテーマに学習会や講座を開催することができ、区民会議の活動をまちづくりの活動としてどのように進めていくかなどを模索しています。また、自主活動グループや国際交流グループとの交流の中で、在住外国人との共生のまちづくりも考えるようになりました。

◆北部方面ネットワーク連絡先

福富洋一郎（世話人）TEL045-942-3480

□力をあわせて地域課題を解決したい
～中部方面ネットワーク

中部方面では、大岡川の再生・保全を行っているグループとまち歩きなどを行う生涯学習グループがいっしょにフォーラムやマップづくりを行いながら、大岡川ネットワークづくりをすすめ、川を核にした地域文化圏を認識しつつあります。また、消費者グループやリサイクル活動を行うグループ、福祉ボランティアのグループなどが出会うことで、お互いの活動がまちづくりだという考え方が広がってきています。

中部方面は、中心市街地の衰退で、さびれる商店街、一人暮らし高齢者の増加など、まちづくりや福祉など様々な面で課題を抱える地域です。自治会・町内会などの既存の地域組織だけでは変化してきている地域を支えきれなくなっています。

幸い、区民会議にまちづくり活動グループのメンバーも参加するなど、地域組織とまちづくりグループのつながりもはかられつつあります。今後様々な分野のまちづくり活動グループと地域組織が力をあわせて、中心市街地のコミュニティを支えていくことができればと思います。

◆中部方面ネットワーク連絡先

嶋田昌子（世話人）TEL045-623-4550

行政・専門家・企業ともっと連携をすすめたい

～4方面ネットワークの今後に向けて

4方面ネットワークのこれまでの活動には、各区や都市計画局の職員なども参加や支援をしてきました。ネットワークに参加するプランナーなどの専門家の力も大いに役立っています。もちろん行政や専門家に頼らず市民同士のネットワークを広げ、力をあわせてまちづくりを進めていくことも必要です。

一方、行政としても地域の総合的なまちづくりに向けて、各区と各局が協力して市民の活動を応援したり、それぞれの事業の連携をはかっていってほしいと思います。そして何よりも、市民・行政・専門家、そして地域の一員である企業が、ともにまちづくりについて情報交換し話し合える場をもっと増やしていきたいと思います。

「みんなでまちづくり」連続研究会

～市民発意による福祉のまちづくりの知恵を
学びあう集いのご案内～

第1回発表者：市川 俊明 氏

（二俣川銀座商店街振興組合理事長）

日時：5月16日（日）午後1時30分～4時30分

場所：横浜市社会福祉協議会9階会議室

（桜木町駅前 健康福祉総合センター内）

参加費：500円

主催：「みんなでまちづくり」連続研究会実行委員会

・横浜プランナーズネットワーク

・横浜市社会福祉協議会「横浜市ボランティアセンター」

・福祉のまちづくり市民フォーラムその後の集い

申込先：横浜市社会福祉協議会

「横浜市ボランティアセンター」 担当 室井

電話：045(201)8620 FAX.045(201)1620

横浜市のホームページの中に「ヨコハマ 人・まち」のホームページを開設しました。この印刷物とほぼ同じ内容のものがインターネットでご覧になれます。インターネット版では、バックナンバーもごらんになれます。

(<http://www.city.yokohama.jp/me/hitomati>)

編集：「ヨコハマ 人・まち」編集会議

発行：横浜市都市計画局企画調査課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-3512 FAX 045-663-3415

編集後記

前号は「都市デザインフォーラム特集」ということで、少しわかりにくいものになってしまったかと思えます。その反省から8号はできるだけわかりやすく、と心がけたつもりですがいかがですか？

さてこの情報誌もおかげさまで次号より3年目になります。皆様のお役に立っているかどうか、ご意見ご感想をお寄せください。

第8号編集メンバー：赤松彰利、片山啓介、金成耕太郎、蟹沢れい子、谷口和豊、松井祐子
川崎あや、賀谷まゆみ